

## 平成 28 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立南田辺小学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価は概ね妥当である。

「大阪市小学校学力経年調査」の結果も大阪市平均を上回っており、子どもたちの学力がよく身についていることがわかる。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果について、男女とも 20m シャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げの 3 種目において全校平均を上回っている。昨年度は全国平均を上回っていたのは立ち幅跳びのみということからすると体力・運動能力が伸びてきたと言えるかもしれない。しかし、体力・運動能力の向上は学校だけに任せるのではなく、ゲームに制限をかけ、体を動かすように促すなど家庭の協力も必要なのではないか。

児童アンケート結果から「授業は分かりやすく楽しい」「学級や学校のルールを守って生活している」と肯定的に答えた児童の割合は約 9 割おり、さらに低学年よりも高学年の方が高いという結果が表れた。子どもたちが落ち着いて学校生活を送っていることがわかる。

## 2 年度目標ごとの評価

## 年度目標：【視点 A 学力向上】

習熟度別少人数指導やグループ学習、個別学習などの学習形態の工夫や、ICT 機器を活用した授業や教材開発に努め、基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指すとともに、児童の主体的、協働的な学び（アクティブラーニング）を推進し、確かな学力を身につけさせる。

(カリキュラム改革・マネジメント改革)

達成状況の評価に関しては妥当である。様々な学習形態での指導を通して、基礎・基本の定着を図る取り組みを行い、成果をあげた。体験学習などは各学年で進められた。ペア学習、グループ学習など様々な形態での学習を通してプレゼンテーション学習も進められた。ただプレゼンテーション学習をはじめ、ICT を活用した学習についてはまだ系統性のある取り組みがなされているとはいえない。大型ディスプレイ、パソコン、タブレット、デジタル教材など ICT 機器の日常的な活用はよく行われていて、児童の学習理解を深めるために効果をあげた。また、各種研修は研修計画に基づいて計画的に進められ教師の指導力向上に役立った。授業研究は道徳を中心に計画に基づいて進められより良い指導法の研究ができた。

## 年度目標：【視点 B 健康・体力の保持増進】

○発達段階に応じた健康に関する指導を推進しながら、感染症予防の励行を実施する。

○体育学習の展開を工夫したり、「体作り」の運動を全校で計画的・継続的に取り入れたりすることで体力・運動能力の向上に努める。

○教職員で情報を共有し健康管理における緊急対応ができるようにする。

(カリキュラム改革)

達成状況の評価に関しては妥当である。健康だより・ホームページの活用や手洗い指導、また、手洗いチェックカードの作成、保健室前の掲示板の活用、家庭への啓発ができています。子どもが楽しく取り組めるようにな工夫もなされている。食育だより、年2回の栄養指導、給食委員会による給食時の放送、給食黒板、「全部食べるデー」、集会の発表、「栄養の歌」の放送など食への関心を高めるため、積極的に取り組んでいることがわかる。

外部講師を招いて年回3回の教員の実技研修（走、マット、跳び箱）を実施した。児童には中央体育館指導員に6学年で2回ずつの跳び箱、マット運動の授業を実施してもらい、児童は運動の楽しさ、できた達成感を味わえた。担任教師にとっても有益な研修となった。4年、6年はサッカー（セレッソ）の外部講師、5年はバスケットボール（エベッサ大阪）の外部講師を招いて楽しくボール運動の学習を行えた。体力・運動能力向上異に向け積極的に取り組んでいることがわかる。

4月にエピペン研修、6月にAED研修を行い、緊急対応に対する共通理解を図った。アレルギー対応対象外の児童がパンを食べた後、5時限目の体育の学習で持久走の練習をして運動誘発性アナフィラキシーを発症した。緊急対応の研修の成果が出て教職員が適切に動くことができた。保護者から対応に対する謝意が伝えられ、医師からは緊急対応の組織が確立していることに対してお褒め

年度目標：【視点C 道徳心・社会性の育成】

○「自己の生き方を豊かにする道徳の学習」を推進し、「自らの向上を目指し、精進、努力する子に育てる。

○我が国の歴史や伝統的産業・文化を理解するとともに、他国の言語や食などの多様な文化を学習し、お互いの国々のよさを尊重する態度を養う。

○体験的な活動を通して豊かな感性や情操をはぐくむとともに、規範意識の醸成を図る。

（カリキュラム改革・グローバル改革・マネジメント改革）

達成状況の評価に関しては妥当である。道徳の時間に使用する教材の研究・共有化を進め、計画的、継続的な指導に取り組むことができた。学校アンケート「相手の気持ちを考えて、友達と話すことができていますか。」という問いに対して低学年は86%、高学年は87%が肯定的な回答をしている。学級や学年で実態にあわせて参加型・体験型の学習内容を取り入れ実践を行った。

C-NETや地域のネイティブティーチャーを活用して全学年で外国語活動を実施した。また、水曜日の朝の会の時間帯には各学級一斉に英語モジュール学習を設定し、計画的に進めることができた。計画的に英語活動が取り入れられていることがわかった。

また社会科や総合的な学習を中心に我が国について理解するとともに他国についても理解し、お互いの良さを尊重する態度を育てた。

交歓音楽会・音楽鑑賞会（警察音楽隊・和太鼓・ピアノコンサート）、読み聞かせ（おはなし玉手箱・おはなしランド）を計画的に行い、豊かな心を育成することをめざした。

児童朝会では、看護当番による月目標の確認やルールの確認を行い、基本的生活習慣の定着を図った。また、運営委員会の子どもたちが休み時間に放送を入れ、繰り返しルールの確認をすることで、さらに定着が図れた。それらの積み重ねもあり、学校教育アンケートの「学級や学校のルールを守って生活している。」という問いに対して、低学年は91%、高学年は90%が肯定的な回答をしている。

全盲の講師・桂福点さんをお呼びし、人権講演会を行った。人権について学ぶことができた。戦争体験の語り部を招いた。実体験に基づくお話を聞き、平和学習を深めることができた。

年度目標：【視点D 地域との連携】

地域の方々の教育力を学校教育の中に取り込み、社会総がかりで子どもたちを育てるという機運をさらに強める。  
(カリキュラム改革・グローバル改革・マネジメント改革)

達成状況の評価に関しては妥当である。

3年生では校区探検で図書館を見学し、地域の施設について理解を深め、親しみをもつことができた。また、スーパーマーケットや商店街の方々に協力していただき、自分たちの暮らしと働く人々について学ぶことができた。

地域の方に読み聞かせ活動「おはなしらんど」を行っていただき、児童がさらに読書への親しみを持てるようにした。また、地域の方からスキルアップのために読み聞かせの研修をしたいと相談があった。そこで、東住吉図書館の館長さんに連絡をとり、読み聞かせ研修会を行った

6年生は商店街の方々の協力のもと職場体験を行うことができた。地域の方を学校に招き、俳句や詩吟の出前授業を行った。日本の伝統文化である俳句や詩吟への親しみを持たせることができた。地域の方や保護者に裁縫実習を手伝っていただき、より丁寧な実習を行うことができた。地域に住むお年寄りの方にお手紙を書く敬老の取り組みを行った。地域に住む高齢者の方々とのつながりを深めることができた。

地元のプロサッカーチーム「セレッソ大阪」やプロバスケットボールチームの「エヴェッサ大阪」に出前授業を行っていただき、児童の運動に対する興味、関心を高めることができた。

学校・地域・PTAが連携を密にして、創立80周年記念式典を執り行うことができた。在校生代表で参加し、喜びの言葉を述べた6年生136名の児童は愛校心を更に強めることができた。また、地域の方々も南田辺小学校のことを更に身近に感じていただくことができた。

地域主催の南田辺まつりに、たくさんの児童、地域の方の他、本校教職員が参加して出店し、交流を深めることができた。

生活科・国語科の「名人しょうかい」の学習で、地域の方にアンケートをとらせていただき、学校で紹介することができた。3学期に早川福祉会館を訪問し、点字の体験学習をすることができた。2月に地域の方に昔あそびを教えていただき、地域の方との交流を深めることができた。

国語の学習で子どもたちからまちづくりの提案があった。その提案を発展させ、地域や区役所、関係機関の協力のもと、長居公園の清掃活動や南田辺商店街での職場体験が実現した。子どもたちが南田辺の町への愛着を深める良い機会となった。

### 3 今後の学校運営についての意見

PTA・地域と協力し合って児童を育成する本校の教育は評価できる。先生たちもよくやってもらっている。子どもたちは楽しく学校へ通えている。今年度学校が取り組んだ体力向上の取り組みの推進を図り、これまで取り組んできたICT教育の推進や他国の文化を体験する学習活動、読書や地域との交流などを来年度以降も継続的に推進してほしい。